

踏み跡 < My mountains >

御坂	大石から十二ヶ岳と毛無山	No.098
----	--------------	--------

くにたち山荘と称する我が家の三畳間、高尾発の始発に乗るために石関が前夜泊。

昭和42年11月26日
 国立発4時38分高尾行一番電車に乗り、高尾5時24分発松本行。この電車もだいたい馴染みになったが、11月も終わりにになると、鳥沢あたりで朝焼けを見るようになる。大月6時12分着。富士急行は6時14分発。田野倉から見る富士は、四～五合目ぐらいまで真っ白になっていた。



スケートを持った土地の子が多い富士急行。富士吉田駅から大石行のバスは7時20分発。(70円)



六分に雪を着けた富士を左手に見ながらバスは西へ。大石に7時50分に到着。初雪の富士の美しさはよく歌われるが、今日の富士も崇高さと繊細さを一段と増している。
 (左写真:朝の大石からの秀麗な富士)

8時行動開始、大石峠への道をとったが、途中の工事現場で道を失ってしまい、さらに沢に入った後右股に寄り過ぎたせいか、峠よりやや東側の破風という岩場に出てしまった。時計を見ると12時。楡形山とその背後の南アルプスの連山が、近いだけによく見える。

秩父やハケ岳も存分に眺めることができる。しかも、富士の手に取るような大きさ、これが御坂の山の特徴である。

12時20分、大石峠近くの稜線上で昼食。御坂山塊ならではの豊富な眺めをおかずに13時15分迄休憩。食事の後は稜線を西へ、中節刀ヶ岳。そして左に大きく回って十二ヶ岳から毛無山への道へ。

中節刀ヶ岳(1608m)14時40分。十二ヶ岳(1683m)15時05分。小規模ではあるが露岩が連続し、大分緊張を強いられる。しかし、眼下に絶えず河口湖の水面を見ながらの道で、気分は実にのんびりしたもの。15時30分を過ぎると富士は下がってきた雲に頬かむりをしてしまい、首から上はもう見えなくなった。

その名のごとく裸の禿山の毛無山(1500m)16時10分。裸なだけに景色を眺めるのには最適。

毛無山から南面に走る稜線を下ること35分で、河口湖西端の長浜に着いた。16時45分、短日(みぢかび)の晩秋、バスを待つ間に寒気が襲い始めて来た。17時17分発のバスに乗る頃にはもう湖面が黒く光る闇になっていた。(バス60円)富士吉田からの電車は順調だったが、中央線が電車事故で二時間半の遅れ。大月発19時38分の電車で帰宅した。

以上

(修正・更新:2023年11月)